

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

真宵

ぱんぱん
たいてい
むむ



「おや、荒川さんじゃないですか」

「八九寺。僕を2006年冬季五輪ゴールドメダリストもしくはハガレン並びに銀匙の原作者様、さらに言えば世界のホームラン王に一本足打法を授けた名伯楽と同姓に呼んでもらえるのは大変光栄だが間違っているぞ。僕の名前は阿良々木だ」

「失礼。噛みました」

「ちがうわざとだ」

「カキました?」

「相当に下品な言葉遣いだぞ。いい加減にしとけ」

全く親の顔が見たいぜ…と脳内で呟いた。その流れで軽い気持ちで八九寺に聞いてみた。

「なあ、八九寺。」

おまえのお父さんでどういう人だ?」

「なんです、いきなり。ズカズカと人のプライバシーに土足で踏み込まないで下さいよ。」

あなたのように人と接する距離感に疎い人がいるから世間で無用な軋轢が生まれるんです。少しは自覚して下さい」

「そんなに怒る事かよ…。僕は唯、小学生女兒との会話に際してなるべく無難な線から入っていいこうという努力を試みただけじゃないか」

「いいですか阿良々木さん。そもそも論になりますが今の御時世、高校三年の男子生徒が小学生女兒に接触を図ってくる辺りもうすでにイエロー通り越してレッドカードですよ。」

「何が目的なんですか」

「何が目的って…そんな」

「身体ですか。身体なんですね。私の未成熟な身体が目的なんですね。」

性欲を満たしたい。しかしただれど自分の思い通りになる女性が身の回りにいない。そこで手っ取り早く打算的に体格的にも体力的にも圧倒できる小学生女兒をターゲットに選んだのですね。全く、とんだ人間のクズですね」

なぜ僕はここまで人格否定の上、罵倒されなければならぬのだろうか。

「あんな八九寺。ぼくにはちゃんと彼女がいるんだぞ。同学年のしかも校内で一二を争う飛びっ切り美女だ。」

以前からお前の言いがかりは的外れなところが多いがここまで酷いとただの悪口だぞ」

「なんと! 恋人がいるのに私で性欲を満たそうと近寄ってきたのですか。」

前々から怪しいとは思っていましたが確信しました」

「あなた真性のロリコンですね」

「性欲の処理にやむを得ず小学生女兒を狙ったのでは無く最初から小学生女兒で無いと性的興奮を覚えないと言うことでしたか。全く人間のくずを通り越して生物学的にアウトな存在ですね。こんな人を恋人と信じつきあっている戦場ヶ原さんが可哀想でなりません」

なぜボクは昼日中の往来で小学生女兒からこんな罵倒を受け続けなければならぬのだろうか。プレイにしては精神的ダメージが半端ないのだが。

「いや待って下さい。」

ということは…まさか偽装恋愛でしたか！

自分はノーマルだよという世間へのアピールプレイですか！いやはや阿良々木さんの用意周到ぶりには言葉もありませんね。さつさと死んで下さい」

とうとう僕は法改正後は完全に公権力からマークされる存在と言うことがはつきり定義付けされてしまった。

「何とかうまいこと言って私を自宅に連れ込もうとしているんでしよう。」

まさか。

外側から鍵のかかる完全防音の洋室を用意できたということですか。リフォーム完了ですか。

後はシルバーの軽自動車と偽のナンバー取得ですか。

とりあえず倉敷の皆様は謝して下さい。

特に女子児童をお持ちの親御さんに対し土下座を要求します。この自称イラストレーター」

「頼む八九寺。時事ネタをぶっこまないでくれないか。

ただでさえ訳も分から無い内に肩身を狭くしてる人達がいるんだからさ」

「そういえばあなたには妹さんが二人もいるじゃないですか。ロリコンの貴方にはおあつらえ向きでしょう。性欲の処理はちゃんと身内で管理して下さいよ」

「どうしたんだよ八九寺。」

そんなに父親の事を聞かれるのが嫌なのかよ？」

「…まあ、正直そこは触れて欲しくくないですね」

「ああ、そうだったのか。すまない悪かったよ。」

お前の家庭環境を考えれば確かに僕が軽率だった」

「いえ、私こそ少し冷静さを失っておりまして。」

暴言の数々、お許し下さい。大変失礼致しました」

「なに、気にすんなよ。」

ぼくはおまえと違って大人だからな」

「いえ阿良々木さんに対する言葉はまあほぼ事実なので大して気にもとめてはいないのですが」

「おいつ」

「妹さん方に対する発言は不適切でした。」

改めてお詫びします」

「ん？ああ、火憐ちゃんと月火ちゃんのことか。」

いや別に訂正しなくてもいいぞ。

二人にはぼくが小学四年生位の頃から性的対象として、ほぼ初潮を迎えるまで毎日相手をしてもらっていたからな。」

今もたまに危険日で無ければ生でやってるぞっ♡」

「あなた、やっぱり死んで下さい」

了

すみませーん
八九寺さーん

先日お電話した
〇〇市の
児童相談所の
者ですー

八九寺

お嬢さんの
就学の件で
お話を伺いた
いのですがー

八九寺さーん
お留守ですかー？

しようがない
出直そうか。

いいんですか？
小四の娘さんの
現状確認
しなくて…

仕方ないよ
無理矢理
踏み込む訳にも
いかないだろう

そうです
けど…

いいんだって。
こうして
現地に足を
運んだ事が
大事なんだから

無理に事を
荒立てると
面倒だろう。

さあ、
次の家に
向かおうか。

はい…

お父さん
…

誰か…
来たみたい。

そうだね

でも今は
二人ともお風呂
だしね。

うん。
仕方ないよ。



うっ…

あー
ちよっと
待って

うん…



さあ、身体
洗うから
あがって



そうかそうかー
まだ小学四年生
だもんなあー

うん…
それくらい。



ほーら
高い高い

今日も
家の外には
出られそうにも
ないみたいだ…

学校にも
行けなくなって
もう何日になる
だろう。

真宵は
本当に軽い
なあー

背はクラスで
どれ位なんだい。
真ん中位かな？



さあ
洗ってあげる
から、座って。

うん…

お母さんが
出て行ってから
お父さんの様子が
少しおかしく
なった。

優しいのは
変わらないけど。
気がつけば
家中の窓は
開けられなく
なっていて

玄関ドアも
内鍵がつけられ
とうとう私を
家から出さない
ようになった



もちろん電話も
止められ携帯は
金庫の中。
お父さんは
私から一時も
側から離れない。

私、学校
行きたい……
友達も先生も
心配していると
思うし……

「真宵の事が
心配なんだ」

そう言うって
くれるのは
ありがたいん
だけ……

んー、それは
真宵次第
だなあー

はいて
立ってー

ねえ
お父さん……

んー？
なんだい。

最近はまだ
お父さんとは
ほとんど会話が
成り立たない

！……

私は出て行った
お母さんの
『代わり』を
しなければ
ならないそうだ。

お父さんは
真宵といつまで
お風呂入れる
かなあー

こうして真宵の
身体を洗って
あげられるのも
今のうちだなあ

料理とか
掃除洗濯とか
そういうこと
ではない。



ふくらんで
きたらもう
無理かなあ

そうだな
このオウバイが
もう少しし...

.....

ずっとお父さんと
一緒に入るって
言ってくれた
だろうー？

どうした？
真宵がもつと
ちっちゃい頃は



じゃあ
いつもみたいに
身体洗って
もらおうか



うん.....

最初は戸惑ったが
最近では
もうすっかり
慣れてきて
しまった。

どうした
真宵？

あ、うん
じゃ背中から
洗うね…

おまんこの
ぬるぬると
石けんの泡が
一緒になったら
それでお父さんの
身体を洗う。

う…
ん…

淫れが
家のきまり。

お母さんが
いないから
これは
私の仕事。

出て行った
お母さんの
代わり。

『お母さんも
そうして
いたから』

真宵も
大分上手く
なったなあー

お父さんが
そう言うから
そうなんだろう。

でも：
お父さんの
背中、広いから
大変だよ

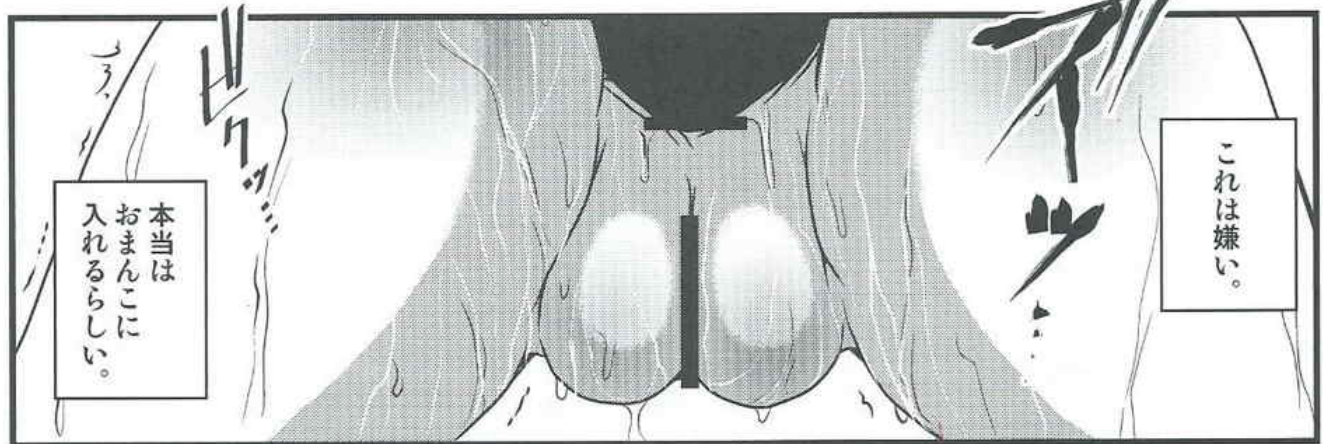
ははっ
そうかい
大変か。

最近おまんこを
お父さんの背中に
こすりつけてると
変な気分になる。

お父さんに
言ったら
それは自然な
ことだそうだ。
よかった。

最近はお腕を
洗うのが好き。
太ももで挟んで
ぎゅつとすると
おへその下が
キュンとする。

だから他より
長く洗ってる。
お父さんには
言っていないけど
多分気がつかれて
いるかも。





お風呂から
上がって
寝る前に
もう一つ。

お母さんの
代わりの
役目がある。

でも
お母さんって
すごいな。

毎日、家事の
他にこんなに
働いていたんだ。
ちっとも
知らなかった。

真宵の髪は
本当にキレイ
だなあー。

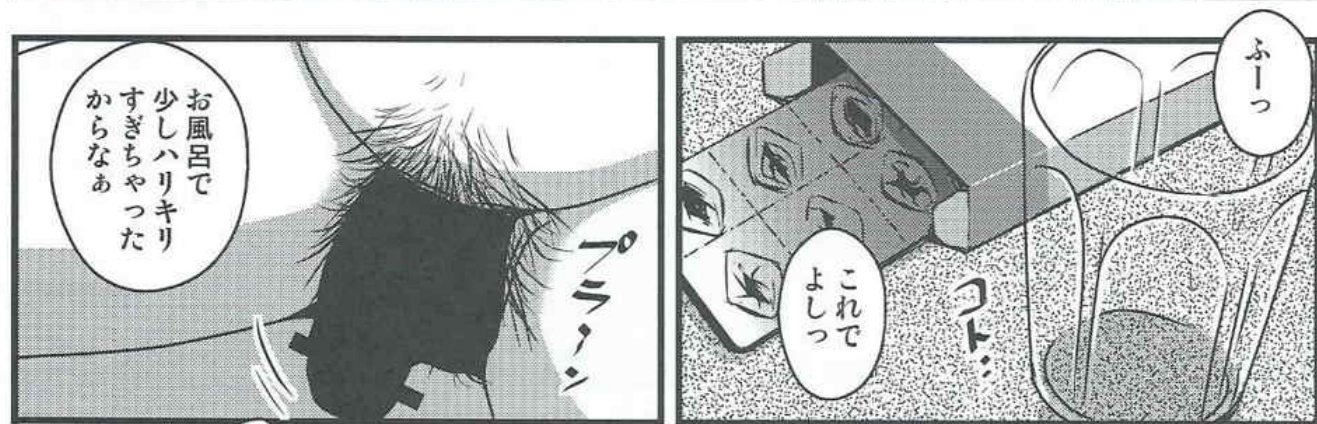
いいかい
風呂上がりでも
こうして…

まあ、
大人だから。
まだ子供の
私には大変だ。

ほーら
可愛く
なった♡

お父さんの
お気に入り
のツインテールに
リボン。

洗髪する時
以外は
ずっとだ。



これ
ホント
大変。

アゴ疲れるし
息苦しいし。

お風呂入った
後だからいいけど
コレさっき私
お尻の穴に
入っていたし。

だから早く
おまんこに
入れられるように
ならなきゃ。

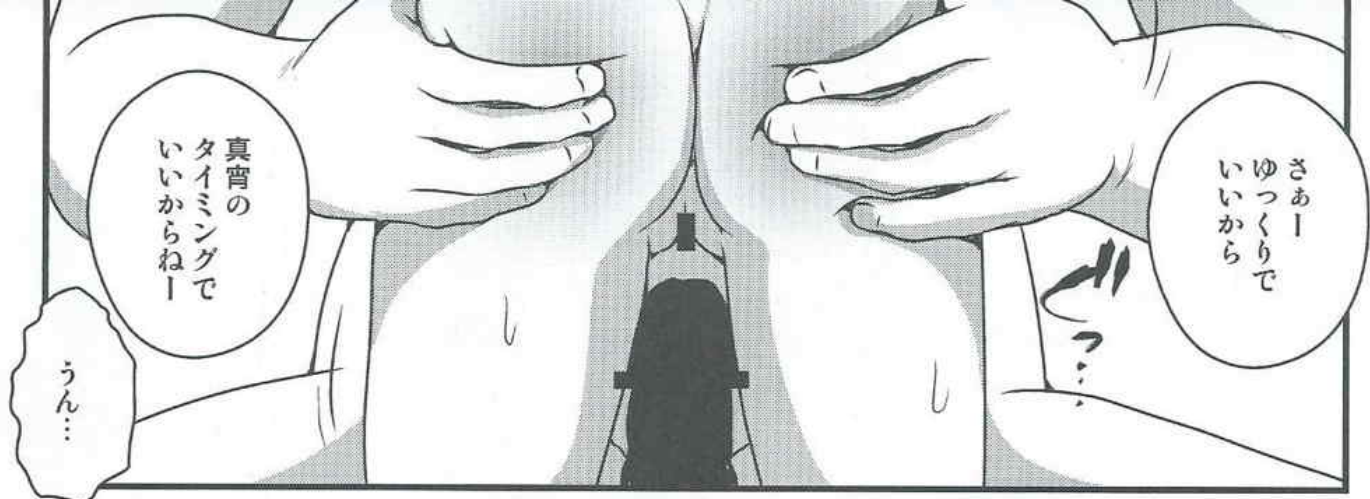
でもなかなか
入らない。
昨日の夜も
がんばったんだ
けど…。

さあー
今日こそ
頑張ってちゃんと
おまんこに入れ
ようねー

よし。
もういいよー

うん…

わかってる…



さあー
ゆっくりで
いいから

真宵の
タイミングで
いいからねー

うん…



これが
できないと
外に出して
もらえない

これ以上
クラスの友達や
先生に心配かけ
たくない

がんばんなきゃ

うう…

う…



だ…だめえ

お父さん
やっぱり
痛い…

んー
仕方ないな

ごめんな
さい…

おまんこの
滑りをよくして
痛みを和らげる
薬だよー

え...?
何コレ...

ほんとは
コレ使いたく
なかった
けど...

あと、少しだけ
気持ちよくなる
成分がちよっと
入ってるんだ。

さあ
脚を払って

ほーらほら
怖くない
怖くない
怖い

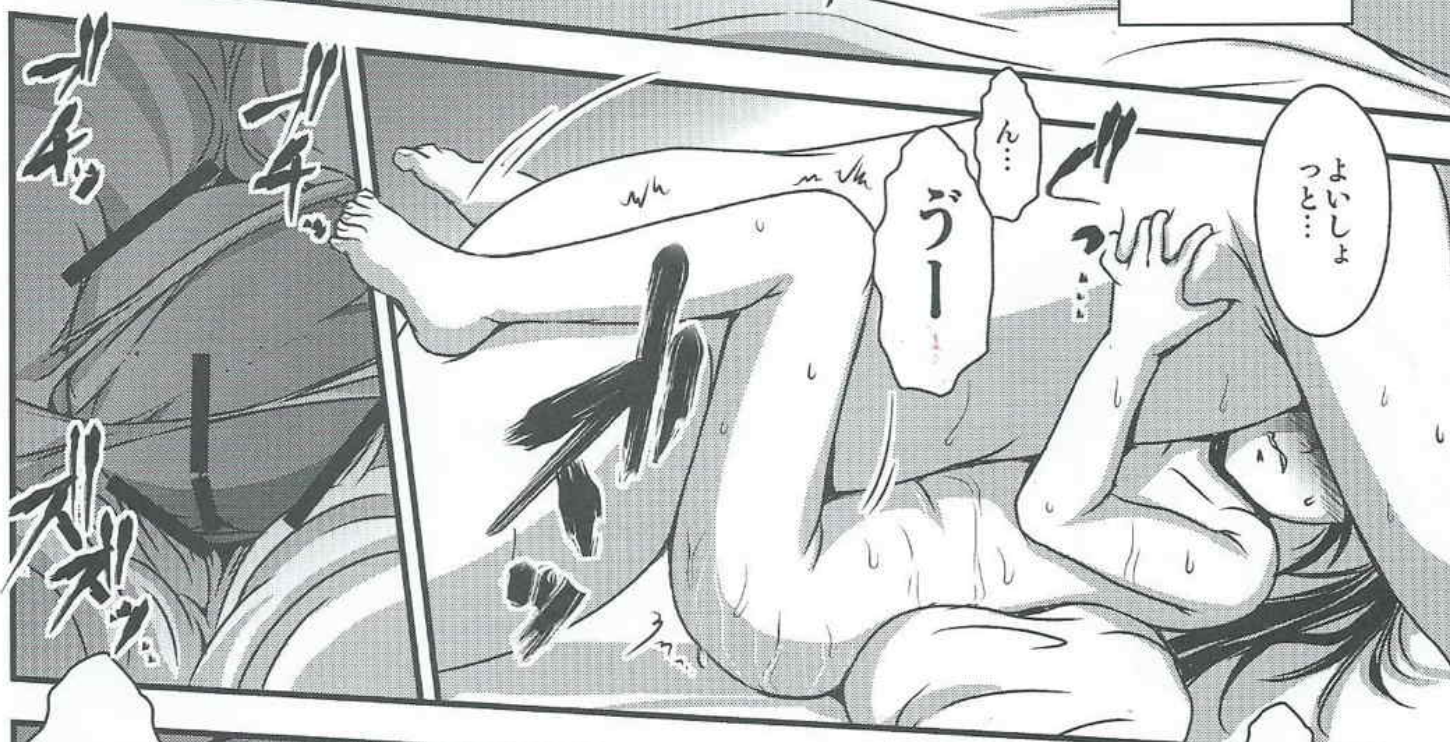


よしよし
これなら
入るなあ

んあっ…



イカされた
後はぼーっと
してほとんど
放心状態だった



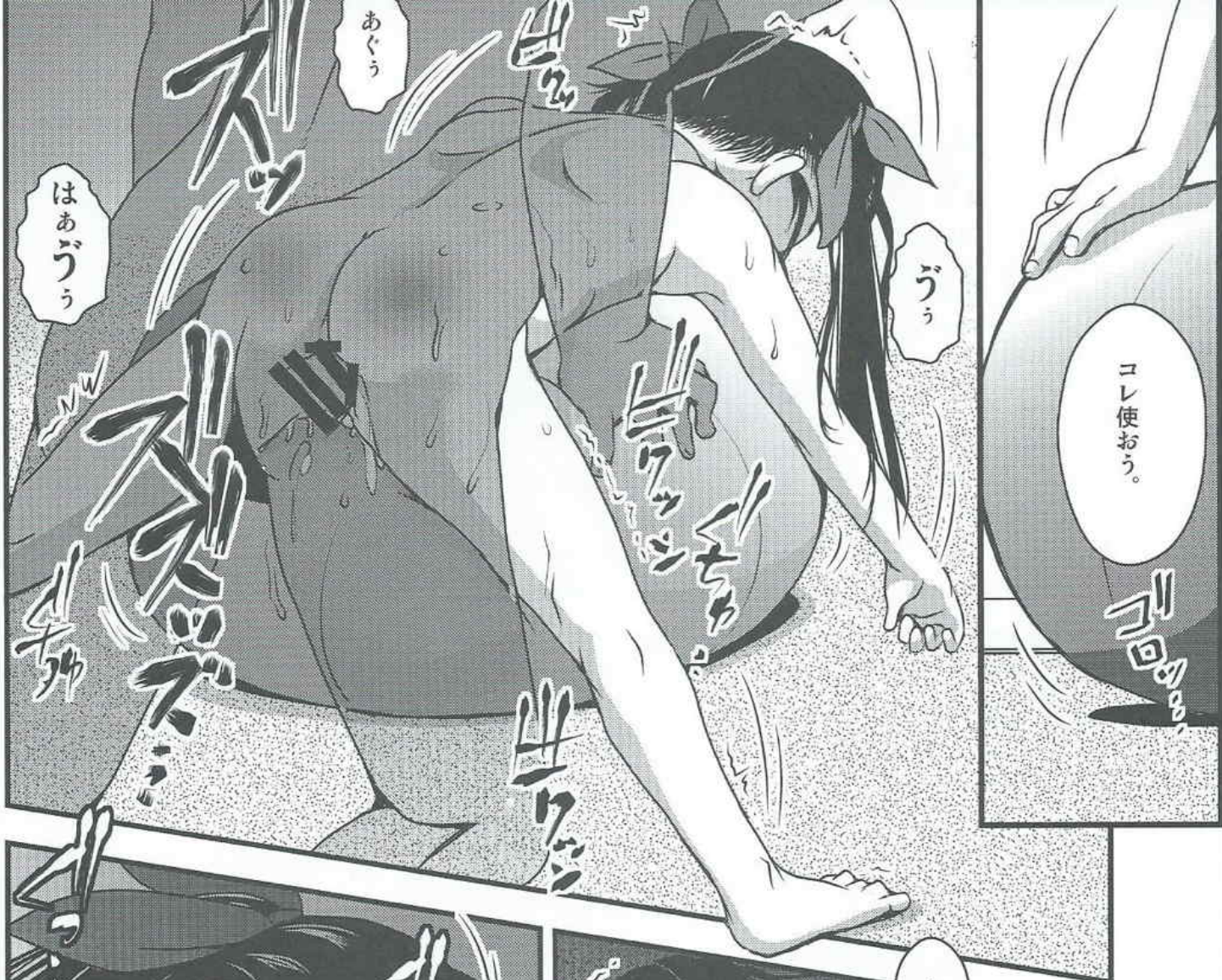
よししょ
つと…

ん…
うー



ひい…

うー





うおっ

うっあぁー



後はもうお赤飯が来ればな!!

最後の方は意識が朦朧として何を言ってるかわく分からなかった

まあ五年生になれば...



よくがんばったなあー

ふうー... えらいぞー 真宵

はい。八九寺です。

あっ、これは…
真宵のクラス
担任の…

申し訳
ありません
ご心配をおかけ
しまして…

はい、私の実家に
帰省中に急病で…
はい、ええもう
大丈夫です。

ハイ、来週には
学校に通えるように
なるかと…いえいえ
とんでもない。

真宵もクラスの
友達に会えるのを
楽しみにして
おりますので…

はい
それでは…
よろしくお願
いいたします。

よかった…

やっと…
学校行ける…

「暑いろう。お前様」

「だったら僕の背中にまとわりつくことないだろうが。おとなしく僕のカゲの中で涼んでろよ」

「つれないのう。こんな酷暑の室内でもお前様の顔を見ていたい、側におりたいという乙女心を理解せぬとは。いやはや情けない我が主様じゃ」

「乙女って…。まあ勉強中はエアコンの設定温度は少々高めにしてるけどさ。大体おまえ外が暑けりゃ暑いなりになんともできるだろう」

気象操作はおろか時間旅行も可能な『怪異の王』に提案を試みる僕。忍がその気になって少しても暑さが和らげばみつけもんだ。あわよくば電気代が押さえられるのではと言う下心込みで。

「いかんいかん。それはまあやろうと思えば可能は可能じゃが…わしは地球に優しい怪異をモットーにしているからな。つまらんことをして何倍ものしつべ返しが返ってくるのは世の常じゃ。お前様もそれは本意ではあるまい」

「まあ確かにな」

もつともな返答をされてしまった。

意外とものを考えてるなこのロリ怪異。

「さてと、勉強も一段落ついたし休憩にするか」

「おお。おやつか。おやつ時間じゃな」

「休憩だって言ってるだろ」

「そうじゃのう、わしは何がいいかのおー」

聞いてねえな人の話。聴力はいいはずなんだがな。この吸血鬼。

「まあ、やはりというか当然甘い物じゃな。脳の休息には糖分の補給じゃ。」

さりとてやはり適量サイズでなければの。

腹の皮が突っ張れば、どうしても横になりたくなくなる。言うのは洋の東西を問わんからの。

はたまたコストパフォーマンスというのも重要じゃ。

普段文字通りカゲからお前様の懐事情をつぶさに観察しておるわしとしてもそこは十分察してあまりある。

しかしコンビニスイーツでお茶を濁すというのも切ない話じゃ。どうせならば気分転換も兼ねてエアコンの効いた店内で安価で美味な菓子を提供してくれる…

そんな都合のいい選択肢はないかのー。

あー困った。イヤー困ったのー」

「あーもういいよ小芝居は。ミスド行くぞ。忍」

「わーい♡」

終物語(上)(中)(下)巻を未だ読んでいません。
そんな自分が今回真宵本出すのは心苦しい限りです。

一応読もうとしたのですよ。

全部上巻から最終巻まで揃ってからと購入はしたが
本棚の肥やしというか発酵熟成状態。
それまでの間は暦物語を延々リピート。
「こよみトール」がお気に入り。
忍ちゃんの『おばやいの!』が超ツボ。

さすがに夏コミ前に気合いを入れて読み始めたが
60ページ目辺りで挫折。

こういう展開は自分の精神状態が不安定になるので
夏コミ終わってからだなと。
花物語の放送もあるし。
焼肉のシーンが楽しみ。

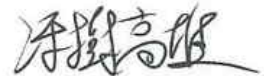
最後にここまで読んでいただき
ありがとうございます。

もっといっぱい漫画描けるようになりたいです。

取りあえずこれ入稿したら寝ます。
腰が痛い。

それでは。

八月の台風一過の青空を見つつ



発行 ろり絵号
編集・構成 冴樹高雄
発行日 2014年8月17日
印刷 プリントマウス様

kibatora@gmail.com
<http://kibatora.web.fc2.com/>

Presented by

RoriE-Go

In 2014 SUMMER

